

Denny Again

新時代沖縄のさらに先へ

誰もが輝き尊重され、希望のうちに喜びを見つけることが当たり前
に実現する島、幸福が真に実感できる沖縄をめざす。

- コロナ禍からの県経済・県民生活の再生
- 世界から選ばれる観光地へ
- 県内中小企業の高度化・高付加価値化を支援
- 域内経済循環と自給率の向上
- 県民所得の向上

誰ひとり取り残さない

すべてが県民のために、知事としてあらゆる課題の解決に挑戦し、ぶれずに、ひた向きに県民の暮らしと笑顔と、県政発展のためにとりくむ。

- 子どもの居場所づくり
- ひとり親家庭の就労支援
- 給付型奨学金など進学支援
- 沖縄らしいSDGsの推進
- 県民ひとり一人の多様性を発揮できる社会へ

平和で、誇りある 豊かな沖縄を

普天間飛行場の一日も早い危険性除去は最大の課題。機能を新たに加えて建設する辺野古新基地は断固として認められない。

- 新たな建議書の実現
- 基地跡地の有効利用
- 世界ウチナンチュ大会の発展
- 沖縄空手世界大会の開催
- 沖縄をアジアにおける平和の緩衝地帯に

沖縄
県知事

平和こそ暮らしの原点

玉城デニー

オール沖縄

ひやみかちうまんちゅの会ニュース 2022年7・8月号

〒900-0004 那覇市銘苅1-14-16 大盛産業ビル B102

電話：098-861-7863 FAX：098-861-0232

内部資料

玉城デニー
後援会HP



玉城デニー
Facebook



玉城デニー
応援LINE@





玉城デニーの 原点、そして目標

伊江村出身の母と米軍基地に駐留する米海兵隊員の父との間に生まれた。父は帰国したが母は沖縄に残ることを決意。米軍基地建設に沸く名護市辺野古で母は住み込みで働いた。玉城知事は別の家庭に預けられ、ウチナンチュの温かさの中で育った。風貌が目立ち、先輩からはいじめられたという。

「どの指も大切」 個性認めた母の言葉

「泣いて帰ると育ての母が『トゥーヌイービヤ、ユヌタキヤネーランド。10本の指は全部形も長さも違うけど、どの指も大切だ。違うからいいんだよ』と言ってくれた。個性があるのが当たり前だと、母の言葉から自然に学んでいた」



「おっかー」と呼んでいた育ての母・知花カツさんと、幼い玉城デニー知事

「誰ひとり取り残さない」はどう生まれたか

「育ってきた環境から必然的に感じていたのではないかと思います。10歳から母とコザに住み、成長すると共に、沖縄の戦後の歩みは人権や自由への闘いであると、沖縄の民主主義の尊厳のようなものを先輩方から教わってきた。あらゆる人たちが幸せに生活していくには、多様性と寛容性が重要だ」と考えるようになった」

「その思いはラジオのパーソナリティーをしていた頃から強くなり、政治の道に進んだ時にも誰ひとり取り残すことのない沖縄らしい優しい社会をつくりたいと思うようになった」

県民と一緒に 取り組んでいく

「県民はチムグクルやユイマールといった精神を大切にしている。ウヤファーフジからこれからの子どもたちまで生命が連関している中に今の自分たちを置き、先の社会を考えて

いる。そんな価値観を共有しているのは県民の力だ」

対話重視

「SDGsの成功の鍵はパートナーシップだ。互いの協力があって社会は持続する。国、県、市町村が対話と協議を重ねる必要がある。全ての人々がステークホルダーであり、県民にもパートナーシップを結ぶ一人になってほしい。対話と協力、協調は『ユイマール』。ウチナンチュが持っているものだ」

「誰ひとり取り残さない社会を実現するには『みんなは一人のために、一人はみんなのために』で参加すること」

目指す未来像

「健やかな環境の中で、子どもたちが尊厳を持って育つのが当たり前になること。大切なのはゴールを見据えてひとつ一つの課題を解決していくこと。夢をかなえるという、シンプルだが人としての生きがいを感じられる社会へ力を合わせていきたい」